

令和2年度小松市立栗津小学校 学校評価1 (中間)

めざす児童生徒像

自分たちで、考え、計画し、行動をする子

- な なかよく助け合い励まし合う子
- か かんがえ、学び合う子
- よ よく遊び、体を鍛え合う子
- し しっかりあいさつし合う

※児童生徒達成結果－教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策	
				教員	児童生徒	保護者				
(学校重点項目)	職員風土の醸成	①～③の平均を80%以上にする。	① 子どもに向き合い教材準備をする日課の工夫をし、時間を創出する	100				○A評価が①45②18③0%と低いが、100%を達成することができた。	・日課の工夫による教材準備の時間の創出を習慣化する。 ・ニーズに応じたタイムリーな研修を実施する。 ・めざす3つの像をより具現化する。	
			② 効果的・効率的・実践的な短時間OJTを実施している。	100						
			③ ゴールを思い描く『憧れの教師像・同僚像・人生像』を設定し、めざしている。	100						
			集計							
石川県共通重点項目	働き方や業務の改善	①～③を90以上にする	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	100				・日課の工夫による教材研究を行う時間の確保や、業務の整理・統合・見直しを図られ、時間外勤務の削減に向け、取組は行われている。成果となつては、十分に表れていない。	・週、月単位で取組目標を決め、取り組む。取組についての成果を明確にし、継続できるようにする。	
			② 校務分掌や業務の整理・統合・見直しが図られており、業務の平準化がなされている。	91						
			③ 最終退校時刻を設定して、児童の下校後意識して業務(特に教材研究)を進めている。	100						
			集計							
小松市共通重点項目	学校研究	②③の平均値が90%以上	① 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている。	90				・基本的な学習習慣づくり(学習規律の定着など)が継続的に行われた。 ・学校再開後、研究授業や校内研究会が行われたことはよかったが、十分でない。	・研究授業で学んだことを発信し、明日の授業につながる共通実践になるようにする。 ・新しい算数科の学習指導要領の評価を学ぶ機会をもつ。 ・講師招聘しての校内研修を2学期以降、すすめていく。 ・めざす授業を具体化していく。	
			② 研究主題に迫る目指す授業像(児童生徒像)を共有し、研究の視点に沿った授業研究会を計画的に行っている。	80						
			③ 教職員一人一人が授業研究に主体的に取り組む、自校の授業改善に向けた取組を共有・実践している。	90						
			集計							
	指導力の向上	授業	③④⑥の児童の割合が、前期…80%以上 後期…85%以上 ③④⑤の教職員の割合が、90%以上	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	100	93		7	1学期は学習内容を進めていくことを重点においたので、じっくり考えを書いたり話したりする機会がとれていなかった。 ○児童は、教員が思っている以上に発表力、記述力がついていると思っている。 ○児童の学びに対する達成感が高い。	・算数科を中心に、相手に説明することで学びが深まることをふまえて、対話力・記述力の育成に重点をおいた授業改善を具体的な提案を通して進めていく。 ・「着想(考えたわけ)」をキーワードにした取組を研究授業を通して学び、普段の授業に取り入れていく。
				② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	90	87		3		
				③ (発表力) 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	60	85		-25		
				④ (記述力) 児童生徒は、自分の考えを書く機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して書いている。	40	86		-44		
				⑤ 児童生徒は、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている。	80	88		-8		
				⑥ 児童生徒は、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	80	96		-16		
	学力の定着	学力調査	②の教職員の割合が90%以上(分掌部会による検証実施)	① 学力の重点目標や具体的な取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている。	90				・1学期は学習内容を進めていくことを重点においたので、学力の重点目標や具体的な取り組みは、計画的に実施できなかった。	・「重点課題」「1問分析」を通して本校の現状を再度確認し、重点目標や具体的な取り組みを明確にする。学校力向上ロードマップに位置づけ、検証・改善を繰り返す。
				② 学校力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている。	90					
③ 近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析、成果や課題を共有している。(小中連携)										
集計										
家庭学習	①の児童の割合が85%以上	① 自分で計画を立てて勉強している(3年以上)	86	83		3	・家庭学習の指導が丁寧に行われている。 ・直しの時間や指導体制などを工夫することで、伸びる児童が各学年に見られる。	・朝の会で家庭学習にがんばっている子をほめ、帰りの会でがんばろうとする気持ちを再度高めて帰す学びのサイクルを生む言葉かけを全校で取り組む。そのための研修・交流の機会をつくる。		
		② 児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている	87							
		集計								

## 令和2年度小松市立栗津小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	<p>「わ」を大切にしたい学校づくりを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童へのアンケート結果を元に担任と児童で話し合い、各学年で年間の重点目標を決定し、取り組む。</li> <li>・7月・12月の意識調査をもとに取組を改善し、成果を共有してより効果的・効率的な取組とする。</li> <li>・児童会と連携し、児童の視点で魅力的な学校づくりに向けて取組を考え、共に実践していく。</li> </ul>	<p>し合いの場をもち、児童理解ができることが多かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導主事を中心にスピーディに組織的な対応できた。</li> <li>・児童会が企画したあいさつジャンケンは非常によい取組だった。児童も教師も地域の方も「わ」になって参加できた。</li> </ul>	
特別支援教育	<p>児童一人一人の教育的ニーズに応じた教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気づき票を通し、特別な配慮を要する児童の課題を把握し、適切な支援を行う。</li> <li>・組織的な特別支援教育を推進のため、現状を把握、評価した上で、効果的だった支援方法などを共有し、継続した支援が行えるよう校内支援体制の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な支援は行っているが、気づき票を各学年でつけると継続支援ができる。</li> <li>・ニーズに応じた校内支援委員会や研修会を何度も開催することができた。支援体制を短いスパンで検証し、改善する。</li> <li>・2学期もタイムリーに校内支援委員会を実施</li> </ul>	
道徳教育	<p>日常生活で生きて働く道徳科の授業づくりを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・深い学びにつながる授業展開を行い、必要に応じて公開研修会で研鑽を図る。</li> <li>・授業の振り返りを道徳ノートに残し、自身の変容を実感できるようにする。</li> <li>・道徳科での学びを生かしている場面を評価し、児童が学びを実感できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りを言うことはしていたが、ノートに書いていくことが毎時間できなかつた。</li> <li>・道徳推進教師を中心に道徳の授業の様子をかいた学級通信を配付していて、参考になった。</li> <li>・道徳推進教師が日常的に若手に教え、若手から感謝されている。</li> </ul>	
保健教育	<p>児童の運動能力の向上を目指し、健康な生活づくりを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力テストの結果を児童や保護者に6年間継続して周知したり、栗津オリンピックを実施したりして、運動に取り組むことへの意欲の向上を図る。</li> <li>・にこにこ生活プロジェクトを実施して、メディアとの関わり方（自分を大事にするメディアコントロール）を考え、よりよい生活習慣を心がけられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力テストと栗津オリンピックは実施できなかった。</li> <li>・にこにこ生活プロジェクトの結果を踏まえ、メディアとの関わり方を継続して児童・保護者に働きかけていく。</li> </ul>	
情報教育	<p>情報モラル・リテラシーを育み、ICT機器を活用した教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的にタイムリーかつ児童の実態に応じた情報モラル、情報リテラシー教育を実践する。</li> <li>・市から出ているICT指標を参考に、児童にICTスキルが身に付くようにする。</li> <li>・全学年の教室にICT機器環境を整え、それらの機器の具体的な使い方や活用方法を提案していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な情報リテラシーの指導ができていない。2学期以降実施していきたい。</li> <li>・ICT機器の活用に差がある。より便利で使いやすいICT機器の整備をすすめていく。ICT機器を活用した授業場面の参観の機会を作っていく。</li> </ul>	

学校関係者評価	
---------	--